

麻生誠、堀薫夫著「生涯学習と自己実現」を読む

- 生涯学習とは何かを考える -

生涯教育のめざすもの<ラングランの主張>

教育には年齢の制限はありえない。

・教育の生活化 = 生涯化

教育の学校独占に終止符を打つこと。

・学校は「生涯教育を個人に可能にさせる自己教育能力を培うところ」であり、それ以上の意味をもたなくなる。

「落ちこぼれ」のない教育を実現する。

各人の個性や独自性を実現させるには、伝統的教育よりもはるかに適している。

・人はその全生涯をかけて、自分自身の知識を獲得しながら生きている。

P.17 ~ P.18

・種が発達することを進化というのに対して、個としての発達は人格形成とよばれる。 P.28

・人間は文化的社会的環境の中で、周囲からのさまざまな配慮を受けることによって初めて一人前の人間になる。 P.30

・学習者の経験をより人間の成長につながるように再構築することのなかにこそ、教育の目的があるのではないか。 P.35

・森(有正)にとっての本当の経験とは「経験の内容がたえず新しいものによってこわされて、新しいものとして成立し直していく」ものである。

経験とは、本来的には未来に向かって開かれるものなのである。したがって、われわれは、経験をその閉ざされた形から開かれた形へと転化させていく努力をしていかねばならない。そのためには、われわれは、日々の生活のなかから自分が大事だと思うメイン・テーマを追求しつづけていく必要がある。

「平凡に見えても、自分がいままで心をこめてきたことをさらに続けて、それを深める。そうすれば、経験はおのずから成熟していく」のである。経験こそが、自分だけが責任をもてる、そして他人がどうすることもできない、きびしい世界なのである。 P.37

・ことばを文字で表す能力の獲得は、人間の認識能力の発達にとって重要な意味を持っている。文字で言葉を書き、文章を綴ることは、「考えること」を意味し、書くべき諸事象を対象化し、分析し、組織化し、要約し、変形するという概念作用を可能にする。そしてこのことは、具体的な事象から離れた抽象的、論理的な思考をも可能にしてくれるのである。 P.163

麻生誠、堀薫夫著「生涯学習と自己実現」放送大学教材、放送大学教育振興会 2002年3月20日刊

- 2006年9月18日記 -